

# 昼も夜も動き続ける 総合防災拠点が運用開始



01



02

01アパートでの火事を想定した救助訓練。訓練塔では、消防署員が本格的な訓練を行う。装備しているポンベや防火衣などの総重量は約30kg。02ロープを駆使して高所から低所へ救出作業に向かう訓練。03消防防災センターでは防火意識向上のため施設見学や消火器訓練などができる。04阿木川公園から見た消防防災センター。05すばやく防火衣を着る署員。緊急出動指令の発生時に備え、着用の練習もしている。



05



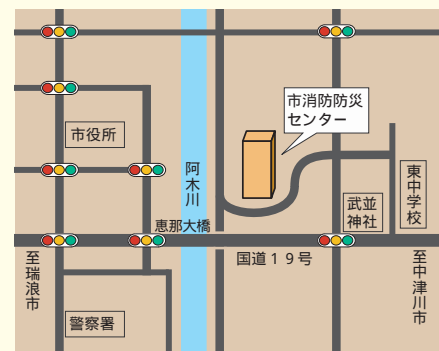
04



03

市消防防災センターが、国道19号恵那大橋下流の阿木川沿いに完成し、3月から運用を開始しています。鉄筋コンクリート3階建てのこの施設は、消防救急業務を行う消防本部と、災害や防災を学ぶ防災センターの2つの機能を併せ持つ市の総合防災拠点です。今回は、新しく完成した消防防災センターについて紹介します。

問い合わせ 消防本部総務課 26 0119



今まで市役所隣にあった消防署は老朽化が激しく、市民の安全を守るため、新しい消防署の建設が必要となりました。そこで、平成19年度から消防署の建設に着手してきました。2年間続いた建設工事もことしの3月に終了し、3月2日から市消防防災センターとして運用を始めました。

総工費は12億6800万円。1、2階部分は消防本部として使われ、3階は防災センターとして、市民が利用できるようになっていきます。

3階の防災センターには、市民が災害について学ぶことができる体験コーナーや、非常持ち出し品などの展示コーナーが常設されています。

また、地震体験車「震ちゃん」も、3月の完成に合わせて導入されました。体験車は、震度1〜7までの揺れを体験することができ、東海地震などの揺れを再現できます。この車両は、市民の防災意識向上のため、学校や各地域の防災活動などに貸し出しをしています。

敷地内には、訓練塔も併設されています。ここでは、消防署員が、高層建物の救助や消火訓練をすることができ、市内には、高さのあるアパートやビルが増えてきており、高所や低所からの救助訓練などの重要性が増してきています。次ページから、同センターの各フロアを紹介していきます。



## 待機する車両。 毎日の点検が安心 を支える。



01 毎朝行われている車両点検。夜の出勤に必要なライトの動作チェック02器具の一つ一つを点検。写真の器具はシャッターなども切ることができるエンジンカッター。03 車両の点検を終え、異常無しの報告をする。



1階は主に、車庫となつて  
います。消防車2台、水  
槽車1台、工作車1台、救  
急車2台、地震体験車1台  
が収められています。  
毎朝、器具や車両の点  
検、動作チェックを行つて  
います。入念な点検が、い  
ざというときの迅速な対応  
につながっています。



01

01 転倒防止をしていない家具が地震のときどうなるかを示す展示。02 家具転倒防止の具体的な方法を学ぶことができる。説明者は市民で組織する防災研究会の加藤さん。03 市内の活断層から地震を予測し、震度の伝わり方を見ることができる。04 ゲーム形式で災害時の避難を体験できる。05 地震と共に起きる液状化の現象と仕組みを学ぶことができる液状化実験装置。



02



03



04



05

## 市内の救急、火災 情報を統括。 消防組織の頭脳。



最先端の通信技術を駆使した消防指令センター

2階には、事務所と消防指  
令センターがあります。  
指令センターでは、119  
番通報の受付から、災害活動  
終了までのあらゆる災害業務  
を統括します。災害地点の確  
定、出動車両や部隊の自動編  
成、出動指令など、すべてコ  
ンピューターによって制御し  
ています。  
恵那消防署、岩村消防署、  
明智消防署、上矢作分署、市  
内すべての消防署への出動指  
令はここから出します。災害  
や救急の情報を総括し、市内  
の出動要請が重なった場合で  
も、効率よく迅速に対応でき  
るようになりました。  
また指令センターは、常に  
複数人体制で待機しており、  
24時間対応できるようになっ  
ています。

## 災害を知り、 防災を学ぶ。

3階には、防災展示コー  
ナーや会議などが行える防災  
研修室があり、地震の仕組み  
や防災の方法などを学ぶこと  
ができます。

ここは市民が利用するフロ  
アで、学校の授業で災害につ  
いて勉強したり、自治会単位  
で防災力を高めるための研修  
をしたりできます。

市民の皆さんの積極的な活  
用が、災害に強いまちづくりに  
つながります。ぜひ、ご利用  
ください。

見学や研修には、防災対策  
課への申し込みが必要です。  
問い合わせ 防災対策課  
(内線317)



# 119番の向こう側



119番は、まず指令センターにつながる。



通報と同時に位置情報を画面に表示。通報内容から災害種別などを決定し、システムが自動で車両編成を行い、出動指令を出す。



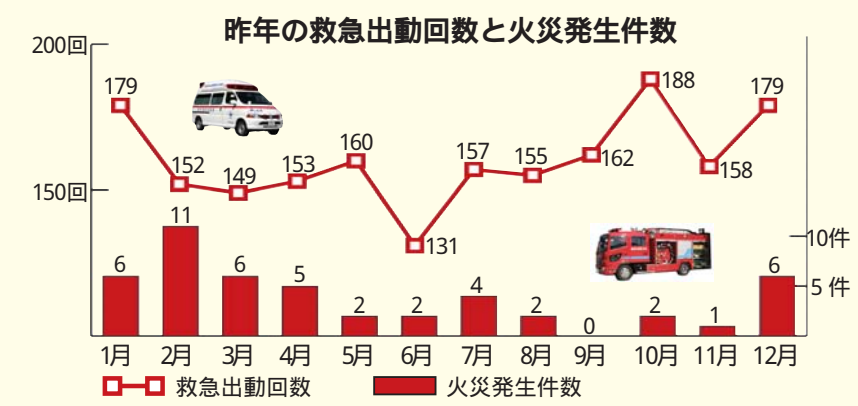
詳細な位置情報と災害情報を確認後、必要な装備を準備し、車両に向かう。



出動指令後、即座に防火衣を着用。



出動指令から約1分で車両に乗り込む。



119番からのお願い



緊急性がないのに、救急車を利用する人が増えています。このままでは、本当に必要な人を待たせる心配も出てきました。昨年の市内の救急出動回数は1923回。皆さん自身の安心のために、救急車の適正な利用をお願いします。

**1秒に救われる命があります。救急車は本当に必要な時に。**

使命は、1分でも1秒でも早く現場に到着し、救助活動。消火活動を行うこと。真夜中の通報にも素早く対応するため、仮眠室からは、直線の廊下で出動準備室と結ばれています。消防防災センターは、出動を最優先に考えたシンプルな構造となっています。

最先端の通信指令システムは、通報と同時にコンピューターが即座に情報処理を行います。緊急時の車両編成や部隊編成、出動指令など、市内の災害状況や緊急要請をすべて統括し、効率的で効果的な運用をしています。

市内の災害情報の一元化により、通報から、出動に至るまでの時間を最大限に短縮し、速やかに対応できる初動体制を確立しています。

また、同センターは、市民の皆さんが、災害や防災を学ぶことができる施設でもあり、まさに市の消防防災の拠点施設となります。

この拠点施設を市民と共に活用し、災害に強く、安心で安全なまちづくりを目指していきます。

